

# 「ほっかいどう学」地方創生塾（鷹栖町）

## 1年目 第4回

日時

令和3年3月13日（土） 14時～16時30分

会場

鷹栖地区住民センター

参加者

旭川市内や鷹栖町内の高等学校に通う高校生4名  
（町内在住4名）

内容

「鷹栖町高校生プロジェクト」の第4回は、5か月ぶりに草野塾長を迎え、これまでの活動のふりかえりと来年度の活動する企画案の作成を行いました。

開始早々、塾生の少し緊張した面持ちに気付いた塾長から塾生や教育委員会職員など会場にいる全員から近況報告を話す提案があり、みんなの前で発言しやすい雰囲気を作りました。塾生の言葉に、塾長を始め、教育委員会職員が率先して一つ一つ頷いたり、前向きな言葉を投げかけたりすることで、塾生の表情も柔らかくなりました。

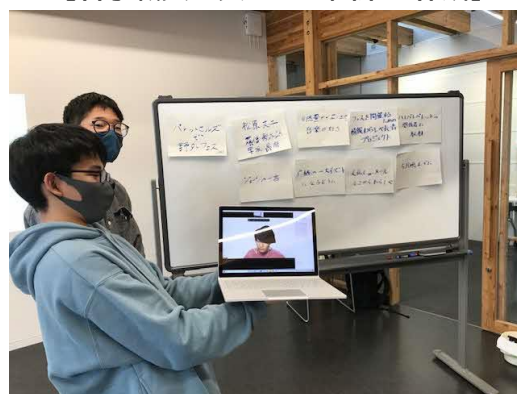
その後、教育委員会山本係長から、「よそ者」「若者」の視点から町内で新規事業を展開している方々を紹介し、現在鷹栖町では、創生塾生も含めて「若者」のチカラを求めていることを説明しました。

後半は、第2回に企画の提案があった3つのテーマ「外国人が帰りたくないと思うまちづくり」「オオカミの桃コンテスト」「パレットヒルズで野外フェス」を第3回で学んだ「企画立案のプロセス」を生かしながら、具体的に文字起こすグループワークとプレゼンテーションを行いました。塾長から、事業展開するために大切な手段の1つ、他地域で似たような事例を「まねる」ことや情報収集するなど「先事例から学ぶ機会」をつくる必要があることが伝えられた後、

シンプルに企画やプレゼンテーションできる「KP法」を用いて、3つのテーマに沿ってグループワークをしました。グループワークでは、若手職員も加わって意見交流しながら企画案を作成しました。作成した企画案はA4用紙10枚程度にまとめ上げ、全体で共有しました。発表後には、聞き手全員から「Good」「More」の視点で付箋にコメントをもらって終了しました。



【若手職員を交えて企画案を作成】



【鷹栖町出身の大学生とプレゼンテーション】

## アンケートの結果（事前・事後）

「鷹栖町のまちづくりの進め方についての理解」「プロジェクト（活動）を進める上で必要なことの知識・理解」が1ポイント以上の上昇が見られたのは、毎回まちづくりに必要な手段を学ぶ機会が行われていたことから考えられます。

反面、「高校生や若い世代がまちの活性化に向けて活動することが必要だと思う度合い」が若干下がっている要因を今後探していきたい。

